

がんの死亡数と罹患数

どのようながんで亡くなっているのか、部位別にみると、①の表のように、総数と男性は肺が、女性では大腸が最も多くなっていますが、どのようながんにかかっているのか②の表を見ると、総数では大腸、男性では前立腺、女性では乳房が最も多くなっており、死亡数の順位とは大きく異なっています。

がんの種類によって治りやすさが異なることが、死亡数と罹患数が異なる要因です。

①がん死亡数の順位(令和2年)

	1位	2位	3位	4位	5位
総数	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
男性	肺	胃	大腸	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃

(出典：人口動態統計)

②がん罹患数の順位(令和2年)

	1位	2位	3位	4位	5位
総数	大腸	肺	胃	乳房	前立腺
男性	前立腺	大腸	肺	胃	肝臓
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮

(出典：人口動態統計)

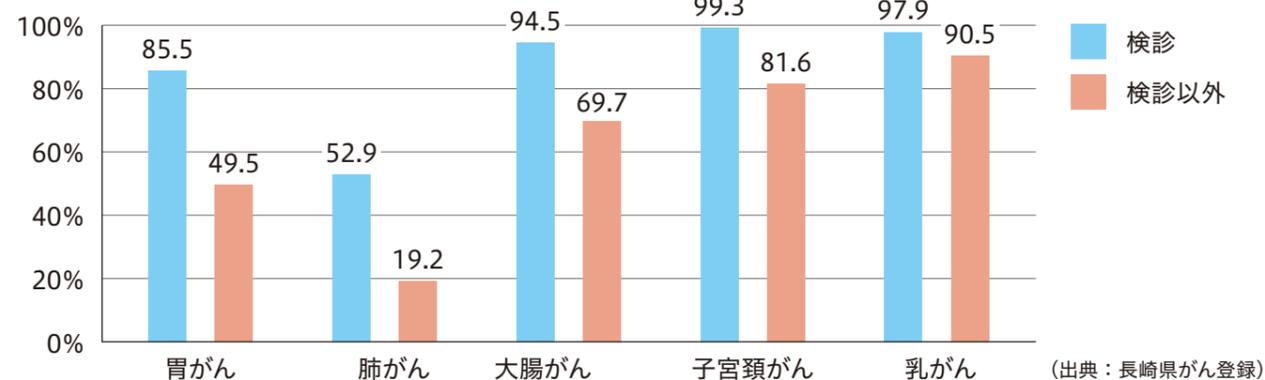
5年相対生存率

5年相対生存率とは、「がんと診断された人のうち5年後に生存している割合」が、「日本人全体で5年後に生存している割合」に比べてどれくらい低いかで表した数値です。100パーセントに近いほど治療で命を救えるがん、0パーセントに近いほど治療で命を救い難いがんであることを意味します。

グラフは、検診で発見された場合と検診以外で発見された場合のがんの種類別5年相対生存率です。

どのがんでも、検診で発見された場合が早期発見・早期治療に繋がり、生存率が高い結果となっています。

発見契機別5年相対生存率(平成20年～平成24年)



がん検診を受診しましょう

国が推奨する5つのがん検診(胃・肺・大腸・子宮頸・乳がん)の受診率(平戸市)は、数パーセントから10パーセント台と非常に低い状況ですが、多くのがんが見つかっています。(平成30年～令和4年の5年間で、全がん検診合わせて75人)

平戸市では、5つのがん検診に加え、血液検査でわかる前立腺がん検診や、肝がんの原因となる肝炎ウイルス検査も実施しています。また、65歳以上の大腸・胃・肺がん検診および40～60歳の乳がん検診の無料化や、集団検診だけでなく医療機関でも個別に検診が受けられます。他にも土曜日や日曜日にも受診できるようにするなど、がん検診を受診しやすい体制を整備しています。

日ごろから、生活習慣に気をつけてがんを予防し、検診を受診してがんの早期発見・早期治療に努めましょう。

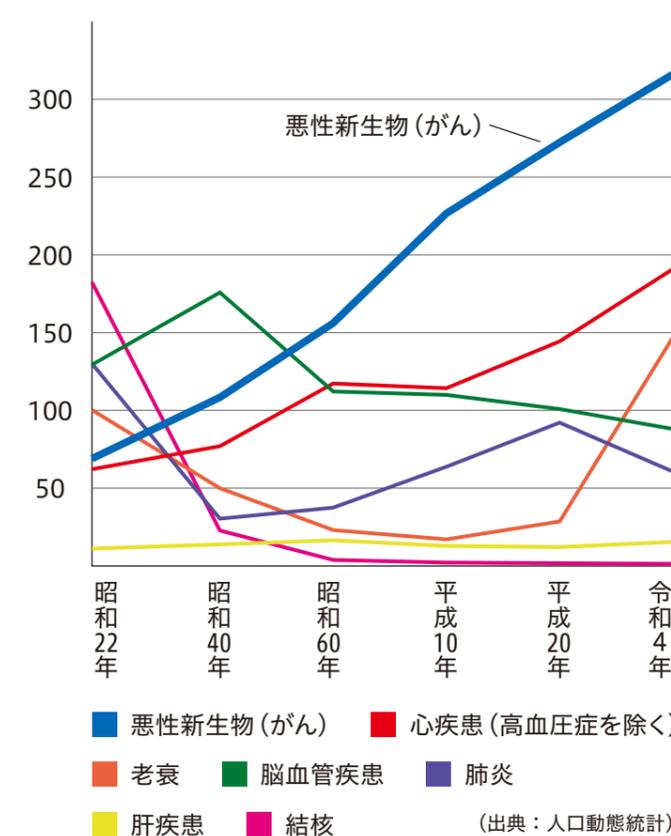


ヘルス 特集 ひらど健康プロジェクト

～がん検診を受けましょう～

☎健康ほけん課健康づくり班 ☎22-9125

主な死因別に見た死亡率(人口10万対)の推移



悪性新生物(がん)が原因で死亡する人が増えています
 全国の、主な死因による死亡率の推移(左表をみると、悪性新生物(がん)が一貫して上昇しており、昭和56年以降、死亡原因の第1位となっています。
 令和4年度に、がんで死亡した人は、全国で38万5千797人で、全死亡者に占めるがんの割合は、24.6%、平戸市でも24.1%となっており、およそ4人に1人はがんで亡くなっていることになります。

日本人の2人に1人はがんにかかる
 と推計されています。
 がんは、喫煙や大量の飲酒、不適切な食事、運動不足といった生活習慣や、細菌・ウイルスなどの感染が主な要因と考えられています。しかし、要因がわかっていないものも多く、現在、「日本人の2人に1人は一生のうち何らかのがんにかかる」と推計されています。
 また、がんにかかる人も増え続けており、これらは高齢化とも関連しています。